【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成17年3月17日(2005.3.17)

【公開番号】特開2004-128779(P2004-128779A)
【公開日】平成16年4月22日(2004.4.22)
【年通号数】公開・登録公報2004-016
【出願番号】特願2002-288438(P2002-288438)
【国際特許分類第７版】
　Ｈ０４Ｎ　5/92
　Ｈ０４Ｎ　5/445
　Ｈ０４Ｎ　5/76
　Ｈ０４Ｎ　5/91
　Ｈ０４Ｎ　7/025
　Ｈ０４Ｎ　7/03
　Ｈ０４Ｎ　7/035
【ＦＩ】
　Ｈ０４Ｎ　5/92　　Ｈ
　Ｈ０４Ｎ　5/445　　Ｚ
　Ｈ０４Ｎ　5/76　　Ｚ
　Ｈ０４Ｎ　5/91　　Ｚ
　Ｈ０４Ｎ　7/08　　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成16年4月19日(2004.4.19)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
少なくとも、コンテンツデータを送出する送出装置と上記コンテンツデータを記録することができる記録装置とから成る放送システムであって、
上記送出装置は、
上記コンテンツデータを送出するコンテンツ送出手段と、
一番組としての上記コンテンツデータおける、それぞれ異なったコンテンツ内容を有するとされるデータ部分に対応した所定の分類識別情報を生成する分類情報生成手段と、
上記コンテンツ送出手段により送出されるべき上記データ部分に対応させるようにして、上記分類情報生成手段により生成された対応する分類識別情報を送出する分類情報送出手段とを備え、
上記記録装置は、
上記コンテンツデータと上記分類識別情報とを受信する受信手段と、
上記受信手段により受信される分類識別情報と、予め指定された分類識別情報との一致を検出する検出手段と、
上記受信手段により受信されるコンテンツデータのうち、上記検出手段により一致が検出された分類識別情報に対応するデータ部分のみが記憶手段に対して記録されるよう制御する記録制御手段と、
を備えることを特徴とする放送システム。
【請求項２】

コンテンツデータと、一番組としての上記コンテンツデータを形成する、それぞれ異なった内容を有するとされるデータ部分に対応してその内容を示す分類識別情報とを受信する受信手段と、
上記受信手段により受信される分類識別情報と、予め指定された分類識別情報との一致を検出する検出手段と、
上記受信手段により受信されるコンテンツデータのうち、上記検出手段により一致が検出された分類識別情報に対応するデータ部分のみが記憶手段に対して記録されるよう制御する記録制御手段と、
を備えることを特徴とする記録装置。
【請求項３】
記憶手段に記憶されているコンテンツデータのうち、指定された分類識別情報に対応するデータ部分以外のデータ部分を消去することのできる分類別消去手段をさらに備える、
ことを特徴とする請求項２に記載の記録装置。
【請求項４】
上記記録制御手段は、
上記検出手段により一致が検出された分類識別情報に対応するデータ部分を記憶手段に対して新規に記録するときに、この新規に記録すべきデータ部分と同じ分類識別情報が対応づけられて記憶手段に記憶済とされているデータのうちから所要のデータを消去するようにされている、
ことを特徴とする請求項２に記載の記録装置。
【請求項５】
上記分類識別情報を予め指定する際には、表示画面上に表示された分類識別情報指定画面から分類識別情報を選択することにより指定することを特徴とする請求項２に記載の記録装置。
【請求項６】
上記表示画面上に表示された上記分類識別情報指定画面からカーソルの移動により分類識別情報を選択することを特徴とする請求項５に記載の記録装置。
【請求項７】
上記予め指定された分類識別情報の指定は、ネットワークを介して携帯端末装置を介した遠隔操作により行われる、
　ことを特徴とする請求項２に記載の記録装置。
【請求項８】
上記記録制御手段は、上記検出された分類識別情報が変更された際には、上記記憶手段に対する記録が終了されるよう制御する、
　ことを特徴とする請求項２に記載の記録装置。
【請求項９】
コンテンツデータと、一番組としての上記コンテンツデータを形成する、それぞれ異なった内容を有するとされるデータ部分に対応してその内容を示す分類識別情報とを受信する受信処理と、
上記受信処理により受信される分類識別情報と、予め指定された分類識別情報との一致を検出する検出処理と、
上記受信処理により受信されるコンテンツデータのうち、上記検出処理により一致が検出された分類識別情報に対応するデータ部分のみを記憶手段に対して記録させる記録制御処理とから成る記録方法。
【請求項１０】
コンテンツデータと、一番組としての上記コンテンツデータを形成する、それぞれ異なった内容を有するとされるデータ部分に対応してその内容を示す分類識別情報とを受信する受信処理と、
上記受信処理により受信される分類識別情報と、予め指定された分類識別情報との一致を検出する検出処理と、

上記受信処理により受信されるコンテンツデータのうち、上記検出処理により一致が検出された分類識別情報に対応するデータ部分のみを記憶手段に対して記録させる記録制御処理と、
を記録装置に実行させることを特徴とするプログラム。
【請求項１１】
コンテンツデータと、一番組としての上記コンテンツデータを形成する、それぞれ異なった内容を有するとされるデータ部分に対応してその内容を示す分類識別情報とを受信する受信処理と、
上記受信処理により受信される分類識別情報と、予め指定された分類識別情報との一致を検出する検出処理と、
上記受信処理により受信されるコンテンツデータのうち、上記検出処理により一致が検出された分類識別情報に対応するデータ部分のみを記憶手段に対して記録させる記録制御処理と、
を記録装置に実行させるプログラムを記録した記録媒体。
【請求項１２】
放送番組としてのコンテンツデータを受信することのできる受信手段と、
操作により、所要のデータをキー情報として設定することのできるキー情報設定手段と、
上記受信手段において受信される上記コンテンツデータから、上記キー情報設定手段により設定された上記キー情報と一致するデータ部分を検出する検出手段と、
上記受信手段により受信されるコンテンツデータのうち、上記検出手段により一致が検出されたデータ部分より以降の所要のデータ部分のみが記憶手段に対して記録されるように制御する記録制御手段と、
を備えることを特徴とする記録装置。
【請求項１３】
上記キー情報設定手段は、上記キー情報として画像データを設定可能に構成されていることを特徴とする請求項１２に記載の記録装置。
【請求項１４】
放送番組としてのコンテンツデータを受信する受信処理と、
操作により、所要のデータをキー情報として設定するキー情報設定処理と、
上記受信処理により受信される上記コンテンツデータから、上記キー情報設定処理により設定された上記キー情報と一致するデータ部分を検出する検出処理と、
上記受信処理により受信されるコンテンツデータのうち、上記検出処理により一致が検出されたデータ部分より以降の所要のデータ部分のみを記憶手段に対して記録させる記録制御処理とから成る記録方法。
【請求項１５】
放送番組としてのコンテンツデータを受信する受信処理と、
操作により、所要のデータをキー情報として設定するキー情報設定処理と、
上記受信処理により受信される上記コンテンツデータから、上記キー情報設定処理により設定された上記キー情報と一致するデータ部分を検出する検出処理と、
上記受信処理により受信されるコンテンツデータのうち、上記検出処理により一致が検出されたデータ部分より以降の所要のデータ部分のみを記憶手段に対して記録させる記録制御処理と、
を記録装置に実行させることを特徴とするプログラム。
【請求項１６】
放送番組としてのコンテンツデータを受信する受信処理と、
操作により、所要のデータをキー情報として設定するキー情報設定処理と、
上記受信処理により受信される上記コンテンツデータから、上記キー情報設定処理により設定された上記キー情報と一致するデータ部分を検出する検出処理と、
上記受信処理により受信されるコンテンツデータのうち、上記検出処理により一致が検出されたデータ部分より以降の所要のデータ部分のみを記憶手段に対して記録させる記録制

御処理と、
を記録装置に実行させるプログラムを記録した記録媒体。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２１】
ここで、この分類コード情報としては、例えば図３に示すように、複数桁の数字によるコード情報とされる。そして、それぞれのコード番号に対応づけてその内容が規定される。例えば、図示するようにコード番号「１２３９４０５」に対応する内容としては、「株価ニュース」が規定される。また、例えば「１２３８０００」であれば「スポーツニュース」などの内容が規定されるものとなる。
本実施の形態の場合、この分類コードが規定する内容は、１つの放送番組の内容を細分化するものとなる。すなわち、この図３の例では、それぞれの分類コードは、ニュース番組の放送内容を細分化しているものとなる。また、この他にも、例えば音楽番組であれば、歌手別の分類コードが規定される等、それぞれの番組の内容をより細分化した分類コード情報が規定されるものとなる。
このような分類コード情報を用い、上記した事業者Ａ～事業者Ｃは、現在送出システム６に送信しているコンテンツデータの内容（現在の放送内容）として、例えば「株価ニュース」に応じてはこの「株価ニュース」の分類コードを対応させることにより、コンテンツの内容に応じた分類コードを番組付加情報管理システム５に対して送出するようにされている。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４０】
本実施の形態において、このような分類コード録画を行うにあたっては、ＥＰＧデータに基づくジャンル指定自動録画やキーワード指定自動録画などの、いわゆる自動録画機能を併用することとする。
つまり、本実施の形態における分類コードは、上述もしたように、放送設備側が送出するコンテンツの内容に応じてコンテンツに付すものとしている。このため、記録装置１０側は実際に放送信号を受信しなければその内容を把握することはできない。つまり、どの放送チャンネルのどの時間帯に、目的とする分類コードの付加されたコンテンツが放送されるかを事前に知ることができない。このため、分類コードが指定されたのみでは、効率よく目的とする内容のデータ部分のみを記録することは困難となる。
そこで本実施の形態としては、上記のようにしてジャンルやキーワードの指定による自動録画を行って、受信する番組を絞った上で、該当する分類コードの付加されたコンテンツ部分のみを録画するという動作を実行させることとする。
つまり、分類コード録画を行うに先立ち、先ずユーザーは自動録画を行うための録画予約設定を行って、番組単位による予約録画設定を行う。そして、このような番組単位での予約録画が設定されている下で、所望の分類コードを選択指定するものである。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４２】

図４において、先ず、ユーザーは、図２に示した操作部２２に対する所定操作を行うことにより、例えば図４（ａ）に示すようなジャンル指定自動録画を行うためのジャンル指定画面をディスプレイ２３上に表示させる。
このジャンル指定画面としては、例えば図４（ａ）に示すように、ＥＰＧにおいて規定されるジャンルが各々示された操作ボタンが表示されるものとなる。また、これと共に、これらの操作ボタンに示されたジャンルを選択するためのカーソルＣＲも表示されている。
ユーザーは、このようなジャンル指定画面に対し、操作部２２を介した操作を行うことにより、図示するカーソルＣＲを移動させてこれらのジャンルが示された操作ボタンの内から所望のボタンを選択することができる。そして、所望のボタンにカーソルＣＲを移動させた上で、操作部２２を介した決定操作を行うことで、このボタンに示されるジャンルを指定することができる。
この場合、例えば図示するようにして「ニュース」のジャンルが指定されたとする。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４４】
このようにして、ジャンル指定自動録画のための予約を行った上で、ユーザーは、例えば操作部２２に対する所定操作を行うことによって次の図４（ｂ）に示すような分類コード指定画面をディスプレイ２３上に表示させる。
この分類コード指定画面としては、例えば放送設備７側でコンテンツデータに対して付加可能な全ての分類コードが、その内容を示す分類項目として表示される。
この場合も、これら各分類項目は操作ボタンとして表示される。そして、ユーザーは図示するカーソルＣＲを移動させることにより各項目（分類コード）を選択することができる。その上で、カーソルＣＲを所望の項目が示されたボタンに合わせ、ここで決定操作を行うことにより、この分類項目の示す内容に対応した分類コードを指定することができる。
なお、この場合、上記ジャンル指定自動録画により録画されるべき「ニュース」のジャンルに属する番組のうち、例えば図示するように「株価ニュース」に対応する分類コードがユーザーにより選択されたものとする。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５４】
一方、上記ステップＳ２０３において、肯定結果が得られた場合は、ステップＳ２０６に進んで現在受信中のコンテンツデータについての録画動作を開始させる。つまり、ステップＳ２０３において肯定結果が得られた場合は、現在受信されているコンテンツデータの内容は指定された分類コードの示す内容と一致するものであるとし、図２に示したドライブコントローラ１９を制御してコンテンツデータのＨＤＤ２０への書き込みを開始させるものである。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５９】
また、上述もしたように、上記分類コードは、放送設備７（各事業者）側で放送内容に応じて付加されるものであるため、本実施の形態のデジタル衛星放送システム１においては

、記録装置１０側で受信される分類コードを常に放送内容と一致したものとすることが可能となる。
例えば、従来において、ニュース番組等にみられるいわゆる生番組のように、放送内容の時間的編成が不規則となる放送コンテンツに対しては、ＥＰＧ上で一番組の内容をより詳細な内容まで区切って掲載することは困難であった。そして、このような理由から、従来では一番組を形成するコンテンツから、特定の内容を有するデータ部分のみを録画時に指定し、このデータ部分のみを記録することが困難であった。
これに対し、上記したようにして分類コードを確実に現在の放送内容とリンクさせることができる本実施の形態では、記録装置１０側において、この分類コードの情報に基づいた録画を行うことにより、上記のような一番組中の特定内容のデータ部分のみを記録するといったことを確実に行えるものとなる。
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９６】
ところで、上記もしたように、上記キー情報として、特定の一番組において放送される特定のコーナーのタイトル画面を指定することによっては、本実施の形態としてのキー情報録画機能を有効なものとすることができる。
しかしながら、この第２の実施の形態においては、このような特定のコーナーのタイトル画面を設定する以外にも、例えば以下のようにして代表シーンを設定することによっても、有効なキー情報録画を行うことが可能となる。